

コミュニケーション

No. **97**

2019.3月号

Contents

P2・3 こんにちは!あかちゃん
移動動物/訃報/飼育動物数

P4・5 園長あいさつ

〔特集1〕

アフリカゾウの繁殖に向けて
(その2)

P6・7 〔特集2〕

**大森山アートプロジェクトの
可能性**

P8・9 飼育レポート/動物病院から

P10・11 イベントレポート

P12 飼育日誌/お客様の声/かたばた通信

写真: 旭山動物園からやってきたユキヒョウのリヒト

こんにちは! あかちゃん

8月以降に大森山動物園で
生まれた赤ちゃんをご紹介します。



ライオン

お母さんのトモはこれまで2回出産しましたが、残念ながら赤ちゃんは生まれてまもなく亡くなってしまいました。9月27日に4頭(オス3、メス1)が生まれ、トモがうまく子育てできるか心配でしたが、みんな順調に成長し、今では肉も食べられるようになりました。

(9ページの飼育レポートでも紹介)



アカカンガルー

昨年はカンガルーのベビーラッシュでした。8月から12月にかけて4頭の赤ちゃんが誕生しました。現在は時々お母さんの袋から出てきては、ぎこちないジャンプを見せてくれます。部屋の中で大家族が寄り添って、のんびりしている様子にとっても癒やされます。

(写真は8月生まれのニーナ(手前)とパク)



コモンマーモセット

12月1日、3頭の赤ちゃんが誕生しました。残念ながら2頭は生後まもなく亡くなってしまいました。残った1頭は母親や家族に見守られながら順調に育っています。

元気でね! 大森山を後にした動物たち

シバヤギ「ぎんた」「とうふ」



10月28日にシバヤギのぎんた(オス 写真左)と、とうふ(メス)が熊本市動植物園へ引っ越しました。遠くへ行きましたが早く向こうの仲間たちと仲良くなしてほしいです。

このほか、プレーリードック2頭とシロフクロウ2羽が弘前市弥生いこいの広場へ、シロフクロウ1羽が東京都の井の頭自然文化園に引っ越しました。

よろしくね!

仲間入りした動物たち



アフリカゾウ

10月15日に仙台市八木山動物公園からメスのリリー(29歳)がやって来ました。東北3園でアフリカゾウの繁殖を目指す取組により、当園のだいすけとペアになります。当園の花子とは期間限定の交換です。

(4～5ページの特集1でも紹介)



アビシニアコロボス

11月27日にアビシニアコロボスが来園しました。当園では11年ぶりとなる飼育です。上野動物園からオスのトリトン、よこはま動物園からメスのレイアが仲間入りしました。

(写真はレイア。8ページの飼育レポートでも紹介)



ニホンコウノトリ

11月1日、ニホンコウノトリのペアが当園のペアと交換で、東京都の多摩動物公園より仲間入りしました。かわいいヒナの誕生が楽しみです。

今後の導入予定…シマフクロウ

主に北海道やロシア南東部に生息し、翼を広げた長さは190cmにもなるフクロウの仲間では最大級の大きさです。当園で飼育展示が始まれば本州以南では唯一の施設となります。

飼育動物数

2018年12月末現在

哺乳類	53種	352点
鳥類	25種	152点
爬虫類	11種	23点
両生類	4種	7点
魚類	3種	20点
無脊椎動物	1種	23点
合計	97種	577点

訃報 忘れないよ...



ミーアキャット

(11月7日死亡)

オス1頭が亡くなりました。昨年10月頃から時々元気がなく食欲の低下も見られ治療をしていましたが、回復することはありませんでした。2014年2月に来園以降、天気の良い日には、直立姿勢で日光浴する様子がお客様にも人気でした。



フタコブラクダ 楽楽

(らくらく) (1月5日死亡)

楽楽は2002年9月に大森山動物園で生まれました。親は友好都市の蘭州市から来た蘭泉(らんせん)と田田(てんてん)です。昨年頃から食欲が無くなり、飼育員、獣医師が歯の治療をするなど手を尽くしましたが、1月4日に立ち上がれなくなり、翌日に亡くなりました。

これからの動物園に求められるもの

園長 小松 守

大森山動物園～あきぎんオモリンの森～は、さまざまなご支援をいただきながら、「動物と語らう森」をテーマにいのちを感じ、動物や自然に思いをふくらませる場をご提供させていただいております。

そんな動物園を運営していくためにはさまざまな課題に対応していく必要があります。その一つが展示動物の確保であり、さまざまな取り組みを進めています。

近い将来、日本の動物園からアフリカゾウが消えるのでは、という心配事が提示される中、大森山動物園を含めアフリカゾウを飼育する東北三園は昨年6月に繁殖のための連携協定を結びました。最初の取組として仙台と秋田の間でメスの交換を行い繁殖に挑戦しています。

また、他園のご協力もいただきユキヒョウやアビシニアコロブスなどを新たに導入した繁殖計画も始めています。実績あるレッサーパンダなどの希少動物の繁殖の成果は、他園との連携の資源にもなっています。こうした種保存は動物園がなすべき当然の仕事とも言えますが、少し趣の異なるものもあります。例えば、イヌワシなどの日本産動物

の動物園での繁殖や保全は、自然界での生息域内保全への寄与という思いも重ねたものです。種の保存は動物園を支え、野生の保全にも寄与する当たり前の仕事とも言えます。

動物園はこうしたことを進めつつ、それに伴ったさまざまな情報を発信することで動物や自然の理解に結び付けることが最大の社会的使命だと考えます。動物展示を通じて「いのち」を伝え、理解につなげることです。また「このころの時代」と言われる中、多くの人々が「癒やし」を求め動物園においでになります。動物と同じ空間で一時を過ごしていただくことで、人がどう生きるのかに対しても思いを新たにすることができる場なのかもしれません。

動物園には時代が変わっても変わらないものがありますが、時代と共に変わっていくものもあるように思います。環境、生命、人々の心が揺れ動き混沌とする時代、動物園はそんな「コレ」を感じ取りながら、その存在を模索し続けていく必要があるのではないのでしょうか。



2018年7月に誕生したひなた(左)とかんた

特集1

アフリカゾウの繁殖に向けて

その
2

飼育展示担当 山上 昇

繁殖の難しさから国内の飼育頭数が減少を続けるアフリカゾウの繁殖のため、東北三園（仙台市八木山動物公園、盛岡市動物公園、大森山動物園）が昨年6月に連携・協力に関する覚書を取り交わしたことを受け、その最初の取組として当園の花子と仙台のリリーを交換することは前号でお伝えしました。本号では、花子を送り出す際とリリーを迎える際の詳細についてお知らせします。

花子が仙台へ出発

1990年、当園に花子が来たときは推定1歳、体重は約400kgの子象でした。それから28年が過ぎ、体重3t以上に成長した花子のような超重量級の動物の移動は当園では経験がなく、他の動物のように麻酔をかけて輸送箱に入れるという手法がとれないため、準備段階から園内でいろいろと話し合いました。移動の準備として、昨年5月に当園のゾウ担当2名が横浜市立金沢動物園とよこはま動物園で実際に使用する輸送箱の確認と輸送箱に入れる(以下、箱取り)ための研修も受けました。



6月20日、金沢動物園から輸送箱が到着し、22日から輸送箱に入れる訓練を開始しました。初めは花子にリンゴやニンジンを与えながら輸送箱への警戒心を和らげていきました。

花子は6月25日には箱に入るようになり、訓練は順調に進んでいましたが、8月14日、箱に完全に入ったところでお尻をアブに刺されるアクシデントに見舞われ、それ以降は箱に入らなくなりました。箱に入るときは「痛いとき」という思いを抱いたに違いありません。その後、花子をなだめたり、より一層のコミュニケーションを取ったり、また、訓練時間を延長したり、餌を変えたりするなど試行錯誤しながら訓練を継続しましたが、箱に入ることはありませんでした。

8月下旬の搬出日は9月25日に延期されました。さらに、園内協議の結果、搬出当日の箱取りは無理と判断し、前日に箱取りすることにしました。

輸送前日、作業は9時20分から開始され、思いの外スムーズに進み花子は約2時間で箱に入りました。花子はそのまま翌朝まで箱の中で過ごしましたが、夜間はゾウ担当

者2名が泊まり込みで見守り、ケガもなく一夜が明けました。

移動当日の9月25日は獣医師とゾウ担当者が付添い、7時40分に当園を出発しました。輸送も順調で予定通り11時40分頃に仙台市八木山動物公園に到着しました。

花子の健康状態に異常がないことを確認後、すぐにゾウ舎寢室に移動しました。花子は箱から出る際は緊張した様子でしたが、私たち飼育員の声かけにもしっかり反応し、自力で予定の寢室に移動、なにもなかったかのように餌を食べてくれました。

当園の担当者は3日間滞在し、仙台のゾウ担当者と共同で花子の様子を見守りました。花子は移動の疲れが多少見受けられましたが、食欲は良好で、私たちゾウ担当者の号令にも反応良く従っていました。



1992年頃の花子

箱取り訓練(6月22日)



花子移動当日の様子(9月25日)



花子移動当日の様子(9月25日)



リリーのお迎えと来園後の様子

花子の搬出後、仙台からリリーを迎える準備が行われました。寢室の中仕切りを改修し、だいすけとリリーが室内にいても互いに見えるようにしました。10月上旬には当園の担当者2名が八木山動物公園でリリーの飼育研修を受けました。

10月15日、14時頃にリリーが無事に八木山動物公園から到着しました。健康状態も良好で、すぐに寢室へ移動しましたが、リリーは落ちつきなく歩き回っていました。その後、仙台のゾウ担当者の号令に安心したのか餌を食べ始めました。右前肢足裏に輸送中にぶつけたのか裂傷がありましたが、仙台と当園の獣医師が対応し大事には至りませんでした。

移動直後から隣室のだいすけとはお見合い状態でしたが、お互い興奮することなく鼻と鼻で挨拶を交わしていました。リリーの搬入日から4日間は仙台のゾウ担当者と共同で調教と展示訓練を行い、最終日には外展示場に出るこ

とができました。

搬入当初は不安と緊張で落ち着きがなかったリリーですが、当園のゾウ担当者にも徐々に慣れ、調教等も順調に進んでいます。11月14日には、初めて外展示場でだいすけと同居を行い、2頭での展示時間も徐々に長くなり、現在、経過は順調です。

リリーは秋田の冬が初体験なので少し心配なところもありますが、無事に冬を乗り切り、春の開園では元気な姿を見ていただけるよう健康管理をしっかり行いたいと思います。



大森山到着後のリリー(10月15日)



だいすけと同居開始(11月14日)

動物園から大森山周辺へ広がる「大森山アートプロジェクト」の可能性

企画広報担当 副参事 吉田 淳一



大森山動物園（以下、動物園）と秋田公立美術大学（以下、美大）が連携し、アートによる地域の活性化を目指す「大森山アートプロジェクト」（以下、アートプロジェクト）がスタートしました。

平成27年から3年間にわたり、動物園内でのアート作品の展示やイベント開催をメインに行った「大森山Arts&Zoo」（以下、Arts&Zoo）を発展させ、大森山公園や地元の新屋地域にも活動範囲を広げる新たな試みです。

●大森山Arts&Zooの成果

平成27年から始まったArts&Zooは、3年間の開催期間の中で壁画やオブジェ、アートサインなど多くの作品を制作し園内各所に展示してきました。

また、高木名誉園長にも参加いただいたトークイベントやミニ灯ろう制作ワークショップなどの市民参加型イベントにより、来園者も参加し楽しめるアートイベントを目指してきました。

このような取組により、来園者アンケートなどでも「動物園の雰囲気が明るくなった」「写真映えする」などの好意的な意見をいただき、「動物を見る」以外にも「アートを見る」という新たな楽しみを生み出しました。



大森山Arts&Zooの作品

●大森山アートプロジェクトの誕生

動物園と美大は平成29年に連携協力に関する覚書を締結し、さらに積極的に連携を推進することで地域の賑わいづくりにも取り組むこととなりました。

作品のクオリティアップや魅力的なイベントの開催など、Arts&Zooをさらに発展させるため、アートプロジェクトには美大から新たに3人の先生に参加いただき、斬新なアイデアによる作品制作やイベントを実施していただきました。

また、平成30年度に美大に関係するさまざまな事業のサポートのため設立された「NPO法人アーツセンターあきた」にもさまざまな形でプロジェクトをサポートしていただきました。

アートプロジェクトの内容としては、Arts&Zooでも中心となり活動してきた、ベジソンク先生と学生により、動物園から大森山公園へ誘導するアートサインの制作や園内での壁画制作を実施しました。

新たな取り組みとして、ガラス作家でもあるこおれたかひと小牟禮尊人先生によるイヌワシの「鳥海」をモチーフとしたガラス作品の制作や、山路康文先生と学生による来園者を対象にしたワークショップ、皆川嘉博先生と学生による大森山公園「彫刻の森」を市民に紹介するガイドツアーなども開催しました。

●大森山アートプロジェクト1年目の実績

①Zoo de 工作

子どもの科学的思考や創造性を育む工作キットを用いたワークショップを7月～9月に3回実施しました。山路先生と学生がサポートし、来園者がイヌワシやオオハシ、ライオン、プレーリードッグなどの体の構造や動きを取り入れた模型を制作しました。イヌワシの羽ばたきやオオハシのクチバシの動きなどを再現する模型の制作に参加した親子が熱心に取り組みました。



イヌワシの模型



オオハシの模型に色塗り

②イヌワシ「鳥海」をモチーフにしたガラス作品

ガラス作家でもある小牟禮先生が、大森山動物園のシンボルであり、47歳まで生きたイヌワシ「鳥海」の姿を永遠に残そうと、頭骨標本をもとにガラス作品として制作しました。



作品が入る吹きガラスのドーム制作



鳥海の頭骨をワックスで再現

※写真は制作中の様子です。作品「イヌワシの鳥海よ、永遠に!」は平成31年3月16日の通常開園のスタートに合わせて公開の予定です。

③動物園から大森山公園に誘導するアートサイン

動物園第1駐車場入口から大森山キャンプ場、大森山公園のグリーン広場、彫刻の森へと続く道路脇や公園内に、美大生がデザインした大きな動物の顔のアートサインを設置しました。作品は学生のアイデアをもとに業者が本体を制作し、学生が着色して完成しました。10月14日のお披露目ではユニークでカラフルなサインが人目を引きました。また、べ先生のデザインによるアートサインがJR新屋駅構内にも設置される予定です。

第1駐車場入口の作品



グリーン広場内の作品



ガイドツアーの様子

④彫刻の森ガイドツアー

大森山公園内に昭和51年に設置された「彫刻の森」の作品を一般参加者と一緒に鑑賞するガイドツアーを行いました。事前に皆川先生と学生により彫刻作品の清掃と補修



彫刻の補修作業

が行われ、10月14日のガイドツアー当日には、展示作品の制作にも携わった秋田県彫刻連盟や秋田美術作家協会のみなさんに作品の解説をしていただきました。

⑤壁画「Lively Monkeys」制作

美大生と同大附属高等学院の生徒が共同で、南米のサルを展示している「さるっこの森」の外壁に3種類のサルが登場するかわいらしい作品を制作しました。Arts&Zooから始まり、園内で制作された壁画は今回で4作品となり、来園者の目を楽しませています。



壁画制作中の様子



完成後の壁画

●大森山アートプロジェクトの可能性

大森山動物園をとお出し、大森山公園から新屋地域に展示や活動の範囲を広げつつある大森山アートプロジェクト。今後も秋田公立美術大学との連携を中心に、地域の学校や施設、市民も巻き込んだ形での作品制作やイベントの開催等によりアートで地域の活性化を目指していきます。

新しくサル舎に入居した仲間たち

飼育展示担当 斎藤 勇

「入居猿募集！」の看板を掲示していたサル舎の空き部屋にアビシニアコロブス2頭が入居しました。上野動物園から来たオスのトリトン(6歳)、よこはま動物園から来たメスのレイア(5歳)です。

2頭は初対面のため、寝室に檻を作ってトリトンを入れ、お見合いをして争わないか観察しました。飼育員の緊張感とは裏腹に2頭ともものんびりとした性格で



レイア(下)とトリトン

特にメスのレイアは初日から手差しで餌を食べたり覗き窓に来て手を出してきたりしました。

日が経つにつれ、レイアがトリトンの前で餌を食べても、檻に手を入れてトリトンの餌を取っても争いがなかったため6日目

で同居を始めました。2頭は並んで餌を食べたりお互いの毛繕いをしたりして仲良く暮らしています。

アビシニアコロブスは野菜や果物、木の葉を食べますが、とくに木の葉が好きなので園内にある桑や柳、マサキなどを採って与えています。好き嫌いがあるため好みの枝葉を探すのに苦労の毎日です。

また、2017年7月に名古屋市東山動植物園から仲間入りしたブラッサグェノン4頭もフェンス際まで来て来園者に愛嬌を振りまいています。寒さにも慣れてきて子ども2頭は多少雪が降っても展示場を元気に動き回っています。

この頃はフェンスに設置した水戸黄門の顔出し看板の後ろに座り、お猿の黄門様になって来園者の目を引いています。



ブラッサグェノンの黄門様

ユキヒョウ リヒト、初めての秋田の夏

飼育展示担当 奥山 麻裕子

ユキヒョウはアジアの山脈、標高3000mほどの高山地帯で過ごすネコ科の動物です。気温がマイナス20℃から30℃にもなる極寒の雪山に適應した身体づくりになっており、他のネコ科動物と比べてかなり長い体毛が全身にびっしりと生えています。

この毛のおかげで寒さにとても強く秋田の冬は全然へっちゃらで、雪の降り積もる展示場にも駆け足で遊びに出て行きます。

この気温の低い環境では武器になる厚い毛皮ですが、動物園で生活するユキヒョウにとっては利点ばかりではありません。毛が長く密集しているため皮膚が外気に触れづらく、皮膚から体温を逃がさない構造になっているため、気温が高い時でも身体を冷やす事ができない



暑さでぐったり

のです。暑さが苦手な動物は高温の日が続くと食欲不振を伴う体調不良、さらにひどい場合には熱中症になることも心配されます。

当園で初めての夏を迎えたユキヒョウのリヒト(オス)に快適に秋田の猛暑を過ごしてもらうために、昨年はいくつか暑さ対策を行いました。部屋には工事現場などで使うような大型の扇風機を設置し、外展示場



肉汁氷を舐めるリヒト

場などで使うような大型の扇風機を設置し、外展示場では肉汁を凍らせた氷を毎日与え、屋上から水を撒いて気化熱で地面の温度を下げる効果がある「打ち水」なども行いました。特にリヒトのお気に入りには肉汁氷です。この氷には、肉汁の他に様々な種類の肉や牛乳を日替わりで混ぜました。朝、リヒトは部屋から外展示場に出るとまっすぐ肉汁氷に向かって歩いて行き、長い時では30分ほど氷を舐め続けていました。昨年は体調を崩す事なく元気に過ごしたりリヒトですが、夏は毎年必ずやってきますので、今年の夏もさらにリヒトが快適に過ごす事ができるような方法を考えていきたいと思っています。

11年ぶりのライオンの繁殖

飼育展示担当 佐藤 正

2016年に群馬サファリパークからオスのロアーが、東京都多摩動物公園からメスのトモが仲間入りし、ライオンの繁殖に取り組んできました。昨年6月に2頭の交尾が確認され、翌月からトモの発情がストップしたため妊娠の可能性が出てきました。ライオンの妊娠期間は103日前後なので最終交尾日から計算し、9月26日を出産予定日と考え準備を進めました。

9月27日朝、いつも通りトモの室内清掃を済ませ餌を与えたところ、いつもはすぐに完食するのですが、餌



生後1カ月の四つ子(10月31日)

を全く食べようとしないため出産が近い事を感じました。夕方4時過ぎに1頭目が生まれてから1時間半の間に2頭が生まれ授乳も確認され一安心でした。翌朝、モニターを確認すると更に1頭増えており、全部で4頭の子どもが確認されました。

ライオンの産子数は通常2～3頭なので、4頭目

を確認した時は喜びよりも全頭が無事に育つか不安を感じました。子どもが3週齢になった10月18日に行った初めての健康状態と性別のチェックでは、オスが3頭、メスが1頭であることがわかりました。体重も生まれたときの約1kgから3kgまで成長するなど健康状態は良好でした。

昨年12月時点で体重は10kg前後となり、1月5日の雪の動物園開催に合わせて子どもたちは母親のトモと一緒に展示場に出る練習を行っています。3月の春開園時には親子の元気な姿をお披露目できるよう、引き続き見守っていききたいと思います。



展示訓練の様子(1月6日)

動物病院から

ラマの足のケガから学んだこと

獣医師 川本 朋代

大森山動物園ではラマを4頭飼育しています。ラマは南アメリカのアンデス地方などに住むラクダ科の動物です。よくアルパカと間違われますが、ラマは体が大きく筋肉質で主に荷物を運ぶ家畜で、アルパカは毛を目的とした家畜で被毛が柔らかい点などが異なります。

4頭のラマのうち、父親のタケルと息子のヒロは同じ場所で飼育しています。オス同士のため一緒にいるとケンカをしてしまうのに、どちらかの姿が見えなくなると一方が不安になって鳴きだすため、屋外展示場ではお互いが見えるように幅広の柵で仕切って飼育しています。

ある日のこと、タケルの左前肢から血が流れていました。柵越しにケンカをして、タケルが足を柵の間から出していたところをヒロにかまれたのだと思います。たいていの傷は消毒処置やなにもしなくても自然に治癒することが多いのですが、今回はケガをした部分がどんどん腫れてきて、直径10cmほどの大きな瘤が2つできてしまいました。

治すには瘤を切開して中に溜まっている膿をすべて出さなければなりません。動物だって痛いことは嫌です。また、ラマのような体が大きい動物が治療を嫌がって暴れると獣医師にも危険があるため麻酔をかけることになりました。

手術当日、吹き矢を使ってタケルに麻酔をかけてから瘤の切開をしました。麻酔は動物にとって負担であり手早く処置をすることが重要です。しかし、こちらの予想をはるかに上回るほど膿がたまっており、切開した直後に大量に膿が飛び出てくるほどでした。そのため、膿の洗浄に手間取り処置の時間が長くなってしまいました。

治療の結果、タケルの足は以前と変わらぬ状態に回復しましたが、事前の想定が甘かったことが今回の反省点です。今後も今回の経験を活かし、適切で迅速な処置ができる獣医師を目指していきたいと思っています。



ヒロ(左)とタケル



イベントレポート



▶ 体験教室「デザインの力で生物の魅力を知ろう!」 9月23日(日)

環境省東北地方環境事務所との共催で、生物の造形とデザインの関係やデザインの力を活用したイヌワシなど野生生物の保護、地域振興の取組についての講演や対談を開催しました。また、午後からは小学生を対象に消しゴムを使ったイヌワシハンコの作成や動くイヌワシのクラフトを作成するクラフト教室を開催しました。



対談「生物のデザイン」



イヌワシのハンコ作り

▶ 自然観察会

9月24日(月・祝)



生き物を観察

自然科学学習館と共催で大森山公園の自然観察会を実施しました。気持ちの良い秋晴れの中、動物園から大森山公園グリーン広場までを散策しながら、身近な生き物や秋の植物の観察をしました。フィールドゲームや公園で拾ったどんぐりを動物園のツキノワグマに与えるなどの活動を通じて、五感をフル活用して大森山の自然を楽しんでもらいました。



公園でどんぐり拾い

▶ 塩曳潟水生生物調査

9月29日(土)



網に入った生物を採捕

地びき網や定置網を使い、園内の天然沼(塩曳潟)で水生生物調査を実施しました。大人9名、子ども10名の計19名がボランティアで調査に参加したほか、水生生物保全協会と新屋高校理科研究部のみなさんにも協力いただきました。調査では、希少魚類のゼニタナゴも採捕でき、参加者には保全活動や大森山の自然の大切さを実感してもらいました。



水槽に入れて観察

▶ 日新小わくわくフェスタ

10月3日(水)



動物病院を見学

異学年交流と動物園学習を目的に、秋田市立日新小学校の全児童が動物園を訪問する「日新小わくわくフェスタ」を開催しました。当日は各学年の学習内容に合わせて、例えば2年生は国語「動物園の獣医師」を、4年生は「動物の体のつくり」をテーマに動物園学習を行いました。児童たちはいきいきとした表情で活動しており、今後も地域との連携や、動物園を教育の場として活用できる活動として、継続していききたいと思います。



動物の体重測定

▶ 秋の動物ふれあいフェスティバル

10月6日(土)

当日は悪天候により人気の動物パレードは中止となりましたが、動物との写真撮影会を開催しました。また、今回初めて開催した「動物園de借り物競走」では、飼育員が使う道具や動物の特徴を探す問題のほかに、「メガネの飼育員」などユニークな問題もあり、お客様とスタッフがいつも以上に笑顔で交流でき、盛り上がったイベントとなりました。



記念撮影会



大森山動物園de借り物競走

▶ どうぶつサイエンス



ユキヒョウを観察



クジャクの飾り羽根鉛筆作り

10月14日(日)

自然科学学習館との共同企画で「どうぶつサイエンス」を開催し、大人を含めた計11名が参加しました。今回のテーマは「5大陸別に動物を観察しよう～アジア編～」です。ユキヒョウやレッサーパンダ、ニホンザルなど、園内の動物をじっくり観察し、最後にはクジャクの飾り羽根鉛筆を作りました。

▶ レッサーパンダ命名式



命名者の松川さんと小松園長



ひなた(左)とかんだ

10月21日(日)

昨年7月に誕生したレッサーパンダのオス2頭の愛称を来園者から応募いただき、園内選考で「かんだ」と「ひなた」に決定しました。命名式では、命名者の松川さんに愛称を発表してもらいました。かんだとひなたがお披露目で外展示場に出てくると、たくさんのお客さんがいっせいかわいらしい姿を写真に収めていました。

▶ いい夫婦の日イベント

11月23日(金・祝)、24日(土)

11月22日のいい夫婦の日にちなみ、23日と24日にイベントを開催しました。時折雨も降り、寒い中でのイベントでしたが、動物ペアのエピソードを交えたどうぶつ解説やまんまタイム、カップル限定の無料エサやり体験などを行い、参加者には動物園でのデートを満喫していただきました。



ペンギンのエサやり体験



カップルでキリンのエサやり体験

▶ さよなら感謝祭 12月1日(土)、2日(日)

お客様と動物への感謝を込めて「さよなら感謝祭」を2日間開催しました。1日は天候が悪い中の開催でしたが、2日の通常開園最終日は、天候に恵まれ大勢のお客様で賑わいました。感謝祭セレモニーでは、高木名誉園長や来園者などから亡くなった動物たちに献花を行っていただいたほか、毎年備品等を寄贈いただいている(株)電洋社様への感謝状の贈呈などを行いました。



(株)電洋社様へ感謝状の贈呈



亡くなった動物たちへ献花

今後の
イベント

2019年通常開園スタート

3月16日(土)～12月1日(日)

※期間中は無休

ミーアキャットの展示場がリニューアルオープン!
イベントの詳細や動物情報は、随時ホームページ、SNSに掲載しますので、お楽しみに!



H30通常開園の様子



飼育回誌



8/1	ワオキツネザル	No.3の部屋の♂:夕方、元気がなかったので、病院に入院させる。
	チリーフラミンゴ	Cペア(茶♀×紫♀)、ペアになってから初めて産卵する。
8/2	チンパンジー	ルイ♀:昨日投与の抗生剤を警戒し、何を与えても飼育員に不信感を持っている様子で近づいてこない。
	レッサーパンダ	双子(7/12生まれ):性別チェックを実施する。2頭ともにオスと判明する。
	レッサーパンダ	体重測定及び仔2頭の身体測定を実施する。 ウタ♀:体重5.72kg、ゆり♀:体重6.58kg。 【仔(生後22日齢)】かんた:体重500g、頭胴長23cm、肛門陰部間2.8cm。ひなた:体重540g、頭胴長25cm、肛門陰部間2.5cm。
8/4	フラミンゴ	今年生まれの雛、ヨーロッパフラミンゴ2羽、チリーフラミンゴ1羽順調に生育している様子。
8/5	チンパンジー	J太郎♂とコタロウ♂の同居を行う。
8/6	キリン	カンタ♂とリンリン♀の採血を実施する。
8/7	トナカイ	元気♂:放牧を実施する。
8/9	アカカンガルー	性別不明1頭出生、仔が袋から顔を出しているのを確認する。
	コモンマーモセット	体重測定実施する。(もも♀:340g、アズキ♀:290g、海♂:465g、だいず♂:180g、麦♂:165g、おまめ♀:200g)
8/12	チンパンジー	ボンタ♂:夜の動物園2日目でやや疲れた様子が見られる。
8/18	ポリビアリスザル	すず♀:体重測定を実施、体重930g(前回よりも+50g)。
	スパールバルライチョウ	瀑♂:本日抜け羽ほぼなし。夏羽にほぼ衣替えしたと思われる。
8/20	トナカイ	ルドルフ♂、元気♂、雁来♀の行動調査を岩手大学と連携して実施する。
8/21	ニシアメリカオオコノハズク	嘴と爪切りを実施、採食等に異常は見られない。
8/23	シフゾウ	暑さのため水入れに頭を入れていた。
8/27	アカカンガルー	ソルベ♀:性別不明1頭出産。
8/28	アフリカゾウ	花子♀:移動用輸送箱への収容トレーニングの朝練習を開始する。
9/1	アムールトラ	カサンドラ♀:発情の兆候を確認する。
	キリン	2頭の体温測定を実施、カンタ♂:37.38℃、リンリン♀:37.42℃。
9/4	ニホンコウノトリ	Bペア:体重測定実施、♂5.08kg、♀4.78kg。
9/5	ユキヒョウ	リヒト♂:寝室に出血痕あり。右前肢パッド擦傷と思われる。
9/9	ブラッサゲノン	2008年生の♂:朝に争っている音がしたため確認すると、右前肢親指付近より出血していた。
	エリマキキツネザル	交尾をしようとしていたがメスに拒まれていた。
9/11	カリフォルニアアシカ	マヤ♂:3日連続で下痢を確認。元気で食欲あり。便からはグラム陽性菌多数確認する。
9/17	レッサーパンダ	双子の展示訓練を実施する。
9/20	スパールバルライチョウ	白♂:残餌10gほどとやや多めにあり、季節変化によるものと思われる。給餌量50g→40gへ変更する。
9/23	キリン	カンタ♂:強めの追尾行動あり。
9/26	トナカイ	放牧個体を展示場へ戻す、今季の放牧を終了する。
9/28	ライオン	トモの仔4頭:朝の時点で生存を確認、4頭とも日中何度か授乳行動も確認する。

10/9	シンリンオオカミ	シン♂:左後肢の大腿部の付け根あたりの患部、皮膚の色は赤味がひいているが、脱毛範囲が広がっている様子。
	フタコブラクダ	楽楽♂:麻酔下による検査を実施する。
10/13	ツキノワグマ	コゴミ♂:給餌量増量しても太れない様子。腰骨の突出と後肢のふらつきが気になる。
10/14	レッサーパンダ	双子、外展示場での訓練を行う。
10/18	ライオン	トモの仔4頭:9/27生まれ、マイクロチップ挿入と体重測定、性別チェックを実施する。(Go♂:3.22kg、なお♀:2.28kg、ろくいち♂:2.94kg、いちろう♂:3.28kg)。
	アフリカゾウ	リリー♀:屋外展示場への放飼訓練を行う。
10/20	チンパンジー	コタロウ♂とルイ♀の室内展示場での同居を実施する。
10/23	ヤキ、ヒツジ、ミニブタ、ポニー	体重測定を実施。
10/27	レッサーパンダ	ゆり♀と双子、小百合♀と綱越しのお見合いを実施。特に問題なし。
10/31	シロフクロウ、ニホンイヌワシ	鳥インフルエンザ対策としてネットを設置する。
11/3	アフリカゾウ	リリー♀:お披露目を開催する。
11/11	ユキヒョウ	リヒト♂:無保定下による混合ワクチン接種。
11/12	アムールトラ	同居、5回完全な交尾行動確認する。
11/16	トナカイ	ルドルフ♂:両角角落角を確認する。
11/17	コツメカワウソ	午前・午後と交尾行動確認する。
11/20	シロフクロウ	黄♂:井の頭自然文化園へ搬出、緑♀:弥生いこい広場へ(H30生ヒナ)搬出する。
11/21	アカコンゴウインコ	クミン♀:1卵目採卵、抱卵も確認する。
	ライオン	仔(9/27生)、ワクチン接種・健康チェック。Go♂:7.02kg、なお♀:5.04kg、ろくいち♂:5.84kg、いちろう♂:5.12kg
11/23	ユキヒョウ	リヒト♂:採血トレーニングを午前、午後2回に分けて実施する。
11/26	フタコブラクダ	来々♀:乾草の採食悪い。
12/3	キリン	リンリン♀:発情粘液、カンタ♂:終日強めの追尾行動あり。
12/4	アカカンガルー	性別不明1頭出生を確認する。
	キリン	カンタ♂:これまでになかった程度の強い発情行動あり。
12/6	アカコンゴウインコ	クミン♀:4卵目産卵を確認する。
12/14	シンリンオオカミ	同居を再開する。
12/17	アナグマ	冬眠のため、展示用と寝小屋をオープンとする。
	レッサーパンダ	ユウタ♂:抗生剤点眼(12/17、18で終了)、角膜障害治療薬点眼(継続)1日1回点眼する。
12/18	ライオン	トモの仔:ワクチン接種、健康チェック実施する。
	レッサーパンダ	ゆり♀、双子、小百合♀の同居訓練実施する。
12/21	ユキヒョウ	リヒト♂:トレーニングでの採血に成功(1回目)する。
	アムールトラ	ヒロシ♂とカサンドラ♀午前中1時間同居する。
	フタコブラクダ	楽楽♂:採食ほとんどなし。
12/22	チンパンジー	コタロウ♂とルイ♀室内最長時間同居、10時から15時まで実施する。
12/23	トナカイ	ルイ♂:両角角落角する。
12/25	ツキノワグマ	冬ごもり開始する。
	フタコブラクダ	楽楽♂:終日採食不良 微量のペレットのみ採食する。
	ホンドタヌキ	♂:昨日は採食しなかったが、今日は採食良好。
12/26	マーコール	08年生まれ♂と14年生まれ♂跛行確認する。
	フタコブラクダ	楽楽♂:前日より食欲回復(集中ケア継続)。
	コツメカワウソ	わらび♀:早レントゲンに映っていた異物が朝、便とともに排泄を確認。キトラ♂:右前足の指先から出血あり。
12/28	カリフォルニアアシカ	マヤ♂:右目閉ざすため夕方から点眼開始する。

お客さまの声

- 8/11 夜の動物園、初めて来ました！ 昼とは違ってすごく楽しかったです！ また来たいです。
- 8/12 いつも子供たちと楽しく利用させてもらっています。気軽にこられるので子供の動物への興味もどんどん増えています。将来は……と思ったり。とても良い環境ですね!!
- 8/13 毎年楽しみに来ています。来園者に楽しんでもらいたい、という思いを感じるボードや展示が大好きです。これからも頑張ってください。
- 9/24 久しぶりに家族で来ました。すごく楽しかったです。もっと沢山来よう!! って思いました。

11/11 ユキヒョウグッズがほしかったです(写真、キーホルダーなど)。もう少し看板(園内案内)を分かりやすく多く設置してほしい。

11/18 年間パスポートがあるので気軽にこれるのでいいです。大きな滑り台で遊べたりお弁当を食べれたりすごくいいです。アニパにもフリーパスあったらいいなあとも思っています。

11/24 仙台からお引越してきたゾウのリリーちゃんに会えて良かったです。

12/2 エサやり体験が楽しく、解説もわかりやすく聞きやすかったです!! また来たいと子どもが言っていた。



かたばた通信



企画広報担当になって丸1年。動物の写真撮影は失敗の連続で、きっと歴代の担当者も同じだと思います。動物の動きが速くてピントが合わない、目の前の動物は魅力的なのに写真では伝わらない…などなど。時には時間をかけてじっくり撮り、苦勞して撮った写真の反響が大きい「伝わった!」と感じてうれしさも倍増です。担当者それぞれが一生懸命動物と向き合って撮った写真。皆さんに動物や動物園の魅力が伝わっていますように!

(菅原)